

「主体的な学び」を促すユニバーサルデザインの授業モデルに基づいた学習指導案（例）

算数科学習指導案

- 学年 第3学年
- 単元名 表とグラフ
- 本時の目標 最少目盛りが1でない棒グラフをかくことができる
- 学習過程

過程	学習活動	指導上の留意事項	ユニバーサルデザイン									
			項目	思考を支える指導・支援								
導入	1 グラフの読み方を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した棒グラフを電子黒板に提示し、読み取り方を確認させる。 	学習内容の視覚提示（視覚化）	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れフリップを貼る。 既習事項を教室側面に掲示し活用させる。 電子黒板にクイズ形式で問題を提示し、意欲をもたせる。 								
	2 的当ての点数を示した棒グラフを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの大きさを1にした大きな数量の棒グラフを示し、前時に学習した棒グラフと比較させることで、適切な目盛りで表すことの必然性を実感させる。 「目盛りが1だと難しいなあ。」「1目盛りの大きさがポイントだよ。」などと課題を発見させる。 児童の言葉を使って、めあてを提示し、ノートに書かせる。 	学習内容の視覚提示（視覚化） 本時の流れの確認・めあての提示（焦点化） 肯定的評価	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を使用して問題を示し興味をもたせる。 学級で実際に行った的当てゲームの得点を活用し、イメージをもたせる。 1目盛りを1にした棒グラフを示し、大きな数量の場合、目盛りが小さくなり過ぎると読み取りにくいことを実感させる。 自分たちで課題を見付けたことを称賛する。 								
1目もりの大きさを考えて棒グラフをかこう。												
		<ul style="list-style-type: none"> 1目盛りをいくつにすれば、読み取りやすい棒グラフになるのか考えさせる。 個人で考える時間を確保し、発表させる。 	学習内容の視覚提示（視覚化） 肯定的評価	<ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの大きさの異なるグラフを提示し、どのグラフが読み取りやすいか比較し、実感させる。 自分の考えを説明させる。 友だちの考えを聞いて「それは、なぜ？」などの問い返し発問を通して、理解させる。 みんなで取り組もうとしていることを評価し、意欲を高める。 								
展開	3 的あての点数を示した棒グラフをかく。											
	(1) それぞれの得点から、1目盛りを何点にすればよいか、一人で考える。 (2) 1目盛りを何点にすればよいか、考えを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 読み取りやすい棒グラフにするための1目盛りの大きさを考えさせる。 それぞれの得点や得点の差に着目させ、1目盛りの大きさをペアで説明させる。 全体で発表させ、1目盛りの大きさについて、どうしてそのように考えたのか、理由を説明させる。 	モデルやヒントの提示（視覚化・共有化） 観点や視点の提示（視覚化・焦点化） 動作化・作業化	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を使用して説明し、イメージをもたせる。 1目盛りの大きさについて、焦点化させて考えさせる。 電子黒板を含めたICT機器を児童に活用させながら説明させるなど、動作化させる。 								
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>児童A</td> <td>120点</td> </tr> <tr> <td>児童B</td> <td>100点</td> </tr> <tr> <td>児童C</td> <td>100点</td> </tr> <tr> <td>児童D</td> <td>80点</td> </tr> </table>	児童A	120点	児童B	100点	児童C	100点	児童D	80点			
児童A	120点											
児童B	100点											
児童C	100点											
児童D	80点											

展 開	(3) 棒グラフをかくときのポイントをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフをかくときには、最高値や棒グラフの目盛りの数に着目して1目盛りの大きさを考えるとよいことに気付かせる。 ポイントをノートに書かせる。 	学習形態の工夫 (共有化)	<ul style="list-style-type: none"> 「それは、なぜ？」などと問い、リレー形式で発表させ、学級全体で考えをつなぎ、考えを揃えたり、深めさせたりする。 								
	(4) 棒グラフをかく。	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで教え合いながら取り組ませる。 	肯定的評価	<ul style="list-style-type: none"> 友だちが、なぜ、そのように考えたのか、他の児童に理由を述べさせる。 「なるほど。」など、児童の次の発言を促す評価を行う。 								
	4 乗り物の台数を示した棒グラフをかく。		学習形態の工夫 (共有化)	<ul style="list-style-type: none"> ペアで考えを述べさせ、共有させる。 児童のノートを電子黒板に映し出し、説明させる。 								
	(1) それぞれの台数から、1目盛りを何台にすればよいか考える。	<ul style="list-style-type: none"> 最高値や目盛りの数に着目させ、読み取りやすい目盛りを考えさせる。 	学習形態の工夫 (共有化)	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでポイントを確認させる。 机間指導で個々の理解状況を把握し、できていることをスモールステップで称賛し、意欲を持続させる。 								
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>トラック</td> <td>25台</td> </tr> <tr> <td>バス</td> <td>30台</td> </tr> <tr> <td>乗用車</td> <td>85台</td> </tr> <tr> <td>オートバイ</td> <td>40台</td> </tr> </table>	トラック	25台	バス	30台	乗用車	85台	オートバイ	40台		肯定的評価	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導で個々の理解状況を把握し、できていることをスモールステップで称賛し、意欲を持続させる。
	トラック	25台										
バス	30台											
乗用車	85台											
オートバイ	40台											
(2) 1目盛りを何台にすればよいか考えて棒グラフをかく。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの台数から「5目盛り」が必要なことに気付かせる。 	学習形態の工夫 (共有化)	<ul style="list-style-type: none"> ペアで考えを述べさせ、共有させる。 									
(3) 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 留意したことを含めて説明させる。 	学習形態の工夫 (共有化)	<ul style="list-style-type: none"> 児童のノートを電子黒板で映し出し、説明させる。 友だちが、なぜ、そのように考えたのか、他の児童に理由を述べさせ、考えを深めさせる。 									
5 まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 最高値や棒グラフの目盛りの数に着目して1目盛りの大きさを考えると、読み取りやすい棒グラフを書くことができることをノートにまとめさせる。 	肯定的評価	<ul style="list-style-type: none"> 「なるほど。」など、児童の次の発言を促す評価を行う。 									
児童のまとめ例：もっとも大きい数や目もりの数に気を付けると、読み取りやすい棒グラフがかけられる。												
6 確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 最少目盛りが1にならない問題を解かせる。解いた児童は、難易度の高い他の2種類の問題から自分で選択させ、チャレンジさせる。 	動作化・作業化	<ul style="list-style-type: none"> 難易度の異なる問題を用意し、児童に選択させ、意欲をもたせる。 									
評価規準：最少目盛りが1でない棒グラフのかき方を考え、読み取りやすい棒グラフをかくことができる。												
終末	7 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを自分の言葉で記述させる。 	振り返りでの言語化 (視覚化・共有化)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉で書かせることで、できたことと、更に疑問に思ったことを実感させる。 								